(54) PRODUCTION OF BASE MATERIAL FOR OPTICAL FIBER

(11) 61-26531 (A)

(43) 5.2.1986 (19) JP

(21) Appl. No. 59-145043

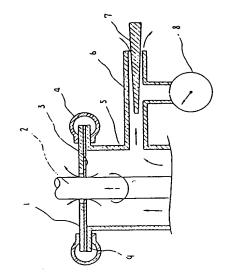
(22) 12.7.1984

(71) HITACHI CABLE LTD (72) TSUTOMU YABUKI(1)

(51) Int. Cl4. C03B37/014//G02B6/00

PURPOSE: To obtain the titled base material having a wide band and low loss with good reproducibility, by controlling a specific tapered glass inserted into an air discharging tube communicated with a sintering glass furnace core tube, and keeping the internal pressure of the furnace core tube at a higher constant pressure than the out-

CONSTITUTION: A perforated carbon sheet 3 is inserted between an unperforated flat glass 1 and a flange 9 at the end of a sintering glass furnace core tube 5, and fixed with clips 4. An air discharging tube 6, having about 8mm inside diameter, and communicated with the end of the furnace core tube 5 having a target rod 2 at the center thereof is provided, and a differential pressure gauge 8 is mounted at the tip thereof to make it possible to measure the internal pressure. The internal pressure of the furnace core tube 5 is detected at the same time, and fed back to a controller. A tapered glass rod 7 having about 8mm maximum outside diameter and about 1/20 gradient fixed on a motor driven micromotion table driven by the controller 9 controlling variably the air discharge cross-sectional area of the air discharge tube 6. The internal pressure is fed back to set the internal pressure of the furnace core tube 5 higher than the external pressure by 3mmH₂O, and the glass rod 7 is controlled through the above-mentioned controller.



(54) PRODUCTION OF BASE MATERIAL FOR OPTICAL FIBER

(11) 61-26532 (A)

(43) 5.2.1986 (19) JP

(21) Appl. No. 59-144158

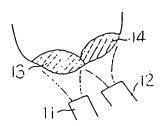
(22) 13.7.1984

(71) SUMITOMO ELECTRIC IND LTD (72) TOSHIO TAMAZUKA(2)

(51) Int. Cl4. C03B37/018,C03B8/04,G02B6/00

PURPOSE: To adjust easily the bulk density and obtain the titled large-sized base material stably in high yield, by flowing an Si hydride as a glass raw material having a greater heat of reaction than the glass raw material to be flowed in the central burner into the second burner and thereafter from the center.

CONSTITUTION: A gas, e.g. SiCl4, GeCl4, H2, O2 or Ar, is made to flow from a burner 11 forming the central part in producing a porous glass base material, and an Si hydride compound having a greater heat of reaction than SiCl,, e.g. SiHCl3, SiH2Cl2 or SiH4, H2, O2 or Ar, is made to flow from the second burner 12 and burned, the above-mentioned glass raw material is subjected to flame hydrolysis, and the formed granular glass is deposited on a totating starting material and grown in the rotational direction to afford the titled porous base material.



(54) PRODUCTION OF BASE MATERIAL FOR OPTICAL FIBER

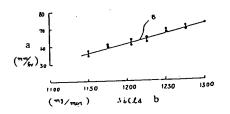
(11) 61-26533 (A)

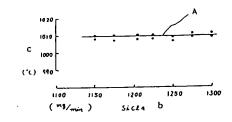
(43) 5.2.19**26** (19) JP

(21) Appl. No. 59-145042 (22) 12.7/1984 (71) HITACHI CABLE LTD (72) TSUTOMU YABUKI(1) (51) Int. Cl^{*}. C03B37/018//C03B20/00,G02B6/00

PURPOSE: To obtain the titled base material capable of giving optical fibers, having a wide transmission band, and uniform in the longitudinal direction, by keeping the bottom temperature of a porous base material at a constant value, adjusting the flow ate of raw material SiCl. gas within a specific range, and

keeping the pulling up speed of the porous base material. CONSTITUTION H_1 , O_2 , Ar, $SiCl_4$ and $GeCl_4$ are made flow into a multitubular burner, and the resultant formed oxide fine particles are sprayed on the end of a cylindrical quartz above the above-mentioned burner while keeping the bottom temperature of the porous base material at a constant value within 1,010±2°C range to grow a base material. The flow rate of the SiCl, is adjusted within 1,150~1,300mg/min range at the same time to adjust only the pulling up speed of the porous base material without changing the above-mentioned bottom temperafure and keep a constant value. Thus, both the bottom temperature and the pulling up speed of the porous base material are kept constant, and the titled homogeneous porous base material capable of giving homogeneous optical fibers having improved reproducibility is obtained.





四公開特許公報(A)

昭61 - 26531

@Int.Cl.4

識別記号

庁内勢理番号

母公開 昭和61年(1986)2月5日

C 03 B 37/014 // G 02 B 6/00

8216-4G S-7370-2H

発明の数 1 (全3頁) 審查請求 未請求

❷発明の名称 光ファイバ母材の製造方法

> 昭59-145043 创特

昭59(1984)7月12日 田の

79発 明 者 矢 吹 者 \equiv 浦 明

勉 眀 日立市日高町5丁目1番地 日立電線株式会社日高工場内 日立市日高町5丁目1番地 日立電線株式会社日高工場内 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号

日立電線株式会社 创出 願 人

20代 理 人

砂発

弁理士 佐藤 不二雄

. 79

1、発明の名称 光ファイバ母材の製造方法

(1) 気相軸付法により製造された多孔質母材を、管 外部の圧力より高い焼粘用ガラス炉芯管内の不断 性ガス雰囲気中で回転させながら上下方向に移動 させて透明ガラス化し光ファイバ内材を製造する 方法において、上記規格用ガラスが芯質に通道さ れた排気管の排気所面積を可変に形成し、上記焼 結用ガラス炉芯管の内圧を一定に保持することを

(2)上記規結用ガラス炉芯管内の内圧がフィードバ ックされて上記排気管の排気断面積を可変制御す る制御装置を設け、該制御装置を介し上記内圧を 自動的に一定に保持する特許請求の範囲第1項記 級の光ファイバ風材の製造方法。

特徴とする光ファイバ母材の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

2. 特許請求の範囲

[発明の背景と目的]

本発明は、気相輪付(VAD)法による光ファ イバ母材の製造方法に関するものである。

VAD法で作られた多孔質母材は、炉内の石英 ガラス製の焼粘用ガラスがお管内でこの炉芯管外 の圧力より、2~4㎜Hz0高いHeあるいはC ℓ 1 などのガス雰囲気中で回転されながら上から 下方へ移動させて透明ガラス化されるようになっ ている。そして、この場合、焼結用ガラス路芯管 内の内圧を周辺より高くし、かつ、一定化するこ とがきわめて重要である。即ち、内圧が低いと周 辺より不輔物を含んだガスが入り伝送額失が藉し く増加する。さらに、内圧を一定化しないと、怪 方内のGeOz蒸発費あるいはGeOzとCiz の反応が長さ方向に不均一となり、屈折率分布が 変化し伝送帯域を劣化させる。

また、内圧が、外圧よりも10mm H 2 〇を越す 圧力になると中心部の屈折率△ n ∎ax を低下させ る。このようなことを発生させないため焼精用ガ ラスが芯管内の気密性をよくすることが第1であ るが、多孔質母材を固定したターゲット棒を回転 させながら上下動させるために、ターゲット 焼結用炉芯管のターゲット体道関部との間に隙間 ができ、その隙間が1回のセットのに、あるいは 長手方向へ移動句に変化し、この部分からガスが 翻れ内圧が変化する。そのため、ガス洗魚を変え て内圧が一定となるように調整するがガス洗魚の 変化により焼結用ガラス炉芯管内のガスの流れが 変化し、温度分布が変化したり、He+Clz、 ガスの場合では組成比を一定にすることが容易で ない。

本発明は上記の状況に備みなされたものであり、低損失で広帯域な光ファイバ母材を再現性よく製造できる光ファイバ母材の製造方法を提供することを目的としたものである。

[発明の概要]

本発明の光ファイバ母材の製造方法は、気相軸付法により製造された多孔質母材を、管外部の圧力より高い焼結用ガラス部芯管内の不活性ガス雰囲気中で回転させながら上下方面に移動させて透明ガラス化し光ファイバ母材を製造する場合によいまに焼結用ガラスが芯管に進通された排気管の排気断面積を可変に形成し、上記焼結用ガラスが芯

管の内任を一定に保持する方法である。 く中では、

[実施例]

以下木発明の光ファイバ母材の製造方法を実施 例を用い、図面により説明する。図は装置の要部所 而図を示し、1は穴あきガラス板。 2はターゲッ ト別、3はカーポンシートでありターゲット棒2 とほぼ周径の穴があけられ、焼精用ガラス炉芯管 5の蟷部のフランジ9にガラス板1を介し狭狩し フランジ9部分にクリップ4によって固定されて いる。6は排鉄管で、焼結用ガラス炉芯管5の幣 部に連過され内径8㎜に形成され、焼結用ガラス 炉芯염5の管外と違通する先端部には、最大外径 8 mm . 勾配 1 / 2 0 のテーパ状ガラス棒 7 が 抑入 され、先端部近くには焼結用ガラス炉芯管5の内 日が測定可能に差圧計8が取り付けられている。 また、テーパ状ガラス棒ではモータ駆動微動台 (関示せず)に関定され、モーター駆動微動台は 焼結用ガラス炉芯筒5の内圧を検出し、この内圧 をフィードバックし雄気管らの雄気断而熱を可変 制御する制御装置(図示せず)により駆動される

ようになっている。

ターゲット神 2 の先端には多孔質 段材(図示せず)が固定され、多孔質 母材の透明ガラス 化の場合に、 He ガス 1 5 2 / min。 C 2 z ガス 1 5 0 cc/minを流し、そして、 内圧が外圧より 3 . 0 mm Hz O 高くなるように、 内圧をフィードバックし、 納御 装置によりテーパ状ガラス棒 7 の抑入 位置を 自動的に制御した。

この方法による内圧を調整しない場合の内圧の変動は、±1 mm H z Oであったのに対し、内圧を手動によりテーパ状ガラス棒7を操作し調整した場合の圧力変動は、±0.3 mm H z O、自動制御によりテーパ状ガラス棒7を駆動し調整した場合は、±0.2 mm H z Oであった。即5、安定化を向上し長さ方向に均一な条件で多孔質母材の選明ガラス化ができる。

このように本実施例の光ファイバ母材の製造方法においては排気管の俳製断而積を調整して焼結用ガラス炉芯管の内圧を一定に保持するようにすることにより圧力変動は少なくなり、伝送帯域.

伝送製失とも長手方向に均一で、再現性にすぐれた光ファイバ母材が得られる。そして、日 e ガス 滅 の 調整 および C e z ガス 気圧が 不 悪となり、多 孔質母材の 透明 ガラス 化 ゾーン に 一 定 の 状 憩 で ガスが 汲れる。また、 焼 結用 ガラス 炉 芯管の 内 圧 を 制 御 装 駅 に フィードバック して 排 気 管 の 排 気 断 面 積 の 調 を 自 動 的 に 行 な う こと に よ り 圧 力 変 動 を さ ら に 減 少 で き る。

[発明の効果]

以上記述した如く木発明の光ファイバ風材の製造方法によれば、低烟失で広帯域な光ファイバ母材を再現性よく製造できる効果を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の光ファイバ母材の製造方法を実施 する装置の要部断面図である。

5 … 焼 精用 ガラス 炉 芯 管 、 6 … 排 気 管 。

8…压力計

代型人 弁理士 佐 藤 不二十



